



【問合せ先】

第七管区海上保安本部
交通部 安全対策課
課長 浦川 和久
TEL 093-321-2931(内線 2640)

令和 4 年 1 月 12 日

第七管区海上保安本部

令和 3 年の船舶海難・人身事故の発生状況（速報値）

令和 3 年の船舶海難・人身事故の発生状況は、令和 2 年に比べ
船舶海難：ミニボートの海難が24隻<13隻>と約2倍に増加！
人身事故：遊泳中の事故が28人<14人>と2倍に増加！4人が死亡！

※ 令和 3 年の値は速報値であり、今後変更される場合もあります。
 ※ 説明文中〈 〉内は令和 2 年の値です。

【船舶海難】（別紙 1 及び 2 参照）

令和 3 年は、338 隻発生 令和 2 年 1 年間の発生数は、333 隻
 死者・行方不明者数は 11 人<7 人>で、内訳は漁船 7 人、プレジャーボート 4 人（うち、ミニボート 1 人）です。

船種別では、

プレジャーボート	158 隻<147 隻>	11 隻増加
ミニボートが 24 隻<13 隻>と令和 2 年の約 2 倍と急増		
漁船	92 隻 <96 隻>	4 隻減少
貨物船	30 隻 <41 隻>	11 隻減少

海難種別では、

衝突	95 隻 <85 隻>	10 隻増加
運航不能（機関故障）	56 隻 <42 隻>	14 隻増加
乗揚げ	33 隻 <39 隻>	6 隻減少

となっています。

【人身事故】（別紙 3 及び 4 参照）

令和 3 年は、270 人発生 令和 2 年と増減はありませんでした。
 死者・行方不明者数は、109 人<128 人>で、内訳は自殺 39 人、原因不明 24 人、釣り中 16 人、その他 30 人でした。

事故区分別では、

マリンレジャー以外の海浜事故	121 人<122 人>	1 人減少
マリンレジャーに伴う海浜事故	75 人 <68 人>	7 人増加
船舶海難によらない人身事故	74 人 <80 人>	6 人減少

マリンレジャーの活動内容別では、

釣り中	36 人 <39 人>	3 人減少
遊泳中	28 人 <14 人>	14 人増加

遊泳中の事故が令和 2 年の 2 倍と急増、遊泳中 4 人<6 人>が死亡

となっています。

【事件事例】

漁船とプレジャーボートの衝突事故 ～基本的な見張りの徹底を！～

令和3年10月9日0650頃から、プレジャーボートA（長さ約5メートル、1人乗り）は長崎県茂木漁港沖にてパラシュートアンカーを降ろし遊漁中のところ、茂木漁港方面から接近する漁船Bを認めたことから、継続監視をしつつ遊漁を続けていた。0730頃、相手船の針路に変化が認められないことから、大きく手を振り自船の存在をアピールしたが、避航動作をとることなくそのまま衝突した。

漁船B（2.6トン、1人乗り）は、同日0715頃、茂木漁港を漁場向け出港した。その後、衝突前に変針を行ったが、漂泊中のプレジャーボートAに気付くことなくそのまま衝突した。

プレジャーボートAが航行不能となり漁船Bにより曳航され入港し、プレジャーボートAの船長が負傷したが人命に異常なかった。



ミニボートの事故 ～行方不明となる事故～

令和3年5月4日、事故者は0400頃、自宅を出発し、福岡県宗像市神湊に自家用車を止めて、ミニボートで沖合に釣りに出港したと思われる。通常1600には帰宅するものの帰宅が遅いことから、家族が捜索に当たっていたところ、事故者の車両のみ発見され、捜索願いがなされたもの。その後巡視船艇、航空機、警察、消防、地元漁船等により捜索がなされ、事故者のカヌー（ミニボート船体のみ）が巡視艇により発見されたが、事故者について行方不明のままとなっている。なお、事故者の自宅には救命胴衣が残されたままとなっており、非着用であったと思われる。



貨物船事故 ～衝突・乗揚げ！油の流出！！～



令和3年11月28日（日）2350頃、外国籍貨物船（総トン数：9,576トン、22人乗組み）が博多港から神戸港向け出港中のところ、福岡県福岡市博多区所在の博多港西防波堤北灯台付近の防波堤に衝突し、乗揚げたもの。該船には破口が生じ、同船の燃料が流出した。12月7日1143に同船は曳き降ろされたが、連日に亘る流出油の除去作業、渡船の運休、撤去作業に係る航泊禁止措置等、各方面に影響を与える海難となった。

遊泳中の事故 ～若い命が失われました～



令和3年8月15日（日）1005頃、福岡県福岡市博多港内の福浜海岸にて、友人同士の高校生3人が、遊具用ゴムボートで遊んでいたがバランスを崩して転覆。ゴムボートを復元させようとしたが、風浪等の影響があり流されたため復元させることを断念し、陸岸まで泳いで戻ったところ、2人は砂浜にたどり着いたものの最後尾を泳いでいた1人の姿が見当たらなくなっていたもの。通報を受けた海保、警察、消防により捜索していたところ、海保潜水土により発見救助されたが、搬送先の病院で死亡が確認された。

釣り中の事故 ～荒天時の釣り中の死亡事故～

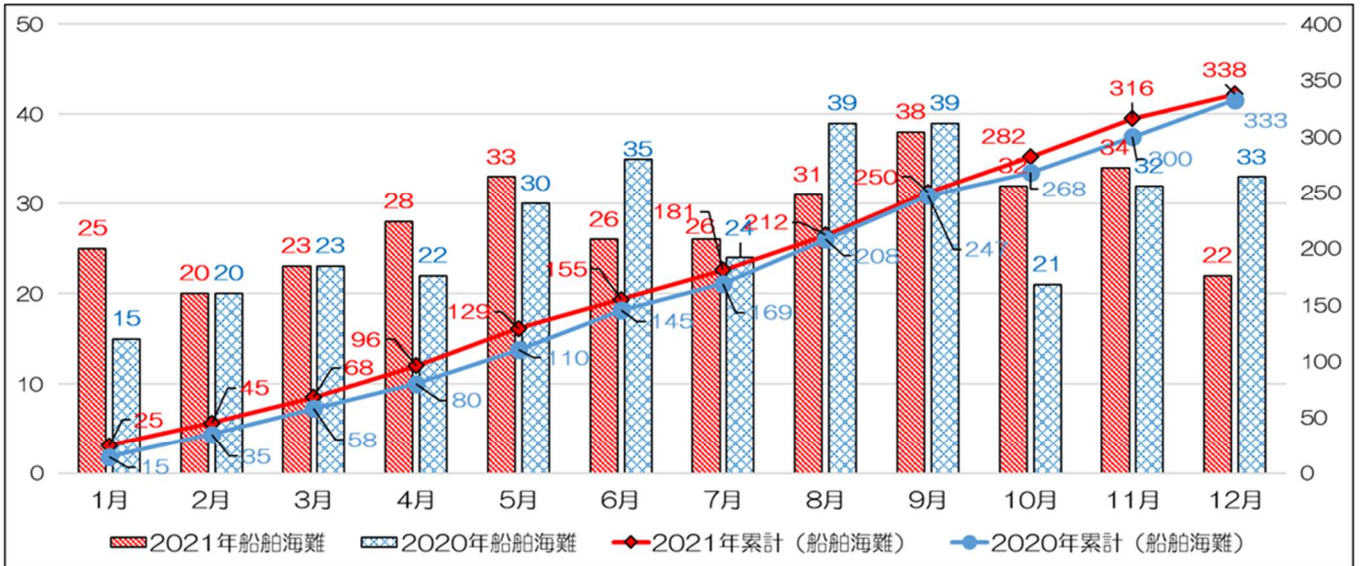


令和3年11月12日（金）1845頃、福岡県宗像市筑前大島において、事故者は、友人2人とともに、磯伝いに釣り場の磯場向け移動中のところ、高波にさらわれ海中転落したもの。友人が救助しようとしたが、救助できず通報がなされた。通報を受けた海保、警察、消防により捜索していたところ、岸に打ちあがっているところを発見され、診療所に搬送されたが搬送先の医師により死亡が確認された。なお、事故者は救命胴衣非着用であった。

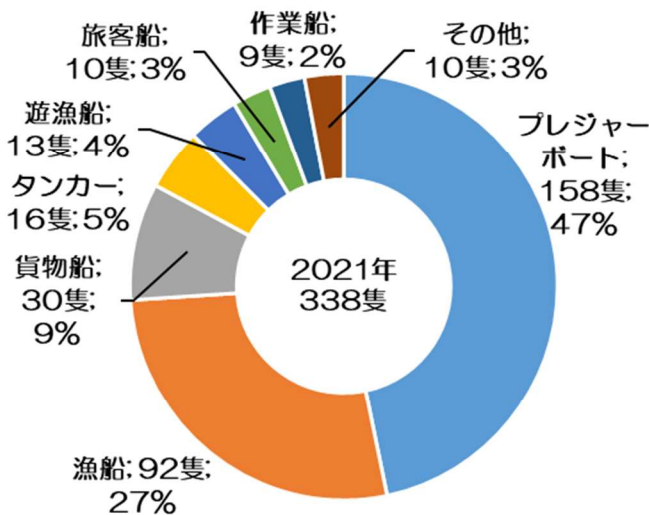
船舶海難の発生状況

2021年は速報値
2020年は確定値

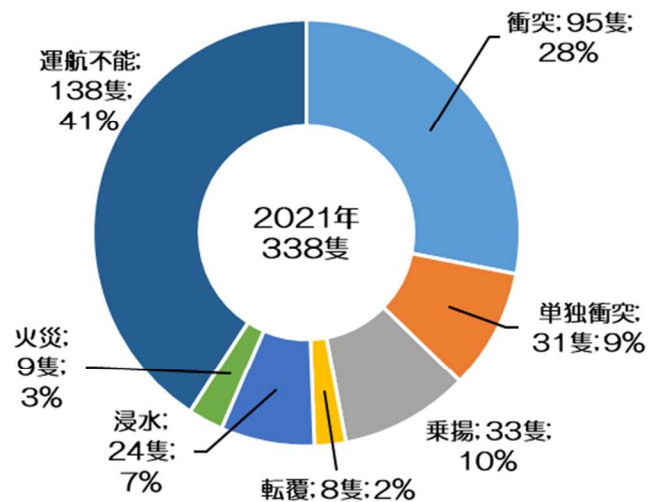
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年船舶海難	25	20	23	28	33	26	26	31	38	32	34	22
2020年船舶海難	15	20	23	22	30	35	24	39	39	21	32	33
前年差	10	0	0	6	3	-9	2	-8	-1	11	2	-11
2021年累計（船舶海難）	25	45	68	96	129	155	181	212	250	282	316	338
2020年累計（船舶海難）	15	35	58	80	110	145	169	208	247	268	300	333
前年累積差	10	10	10	16	19	10	12	4	3	14	16	5



船舶種類別発生状況



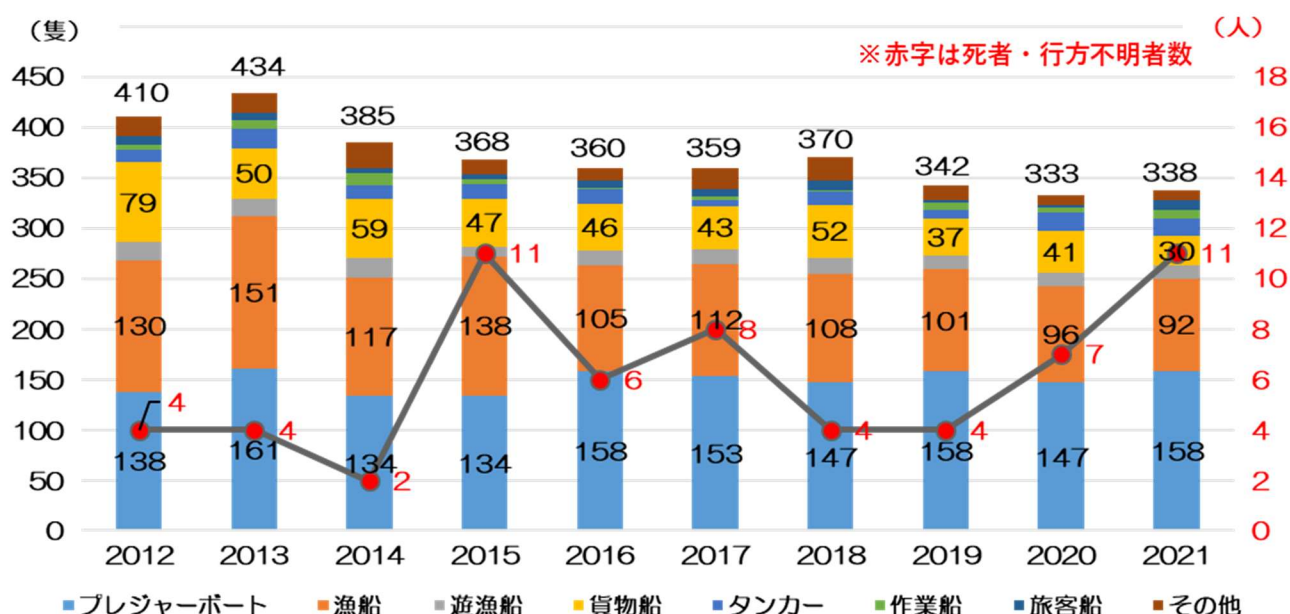
海難種類別発生状況



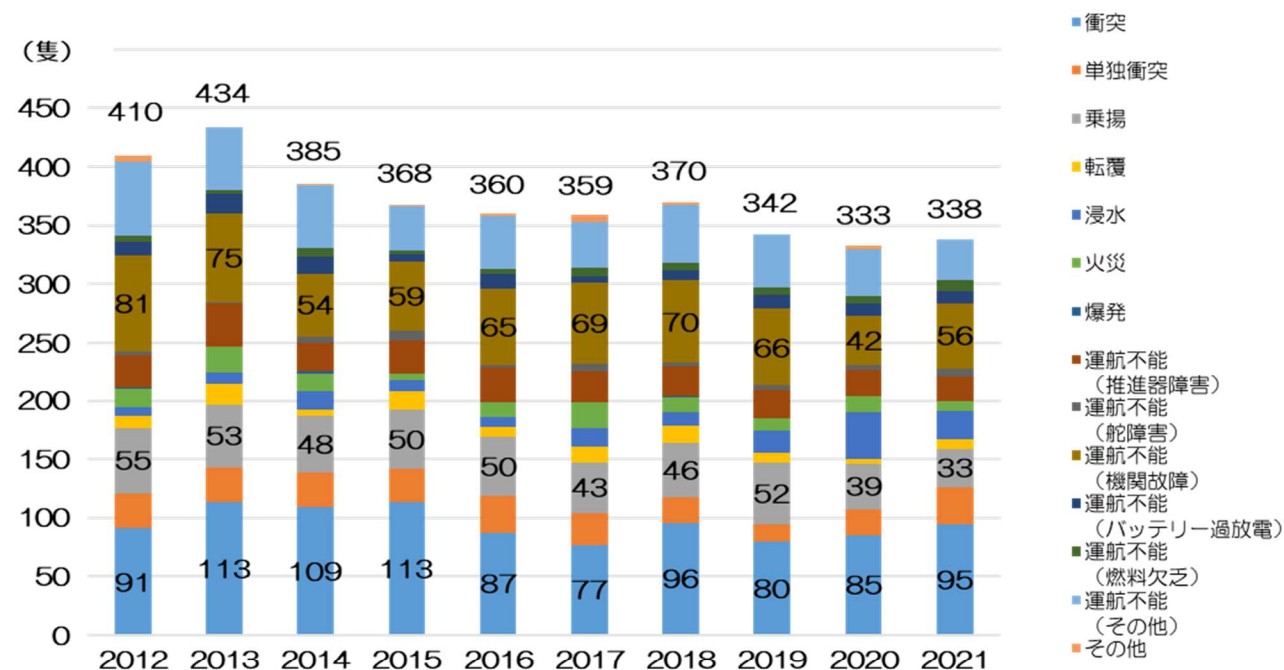
*1 船舶の用途の「その他」は練習船、監視取締船、軍艦等

*2 海難の種類「運航不能」は、推進器障害、舵障害、機関故障、バッテリー過放電、燃料欠乏、ろ・かい喪失及び無人漂流、走錨及び荒天難航等を含む

船舶種類別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値



海難種類別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値



県別船舶種類別発生状況（2021） *速報値

	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県
プレジャーボート	8	57	25	49	19
漁船	10	18	4	45	15
貨物船	3	16	0	5	6
その他	3	18	3	17	17
総計	24	109	32	116	57

*2021年は速報値

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
ミニボート	6	9	11	5	9	10	11	17	13	24

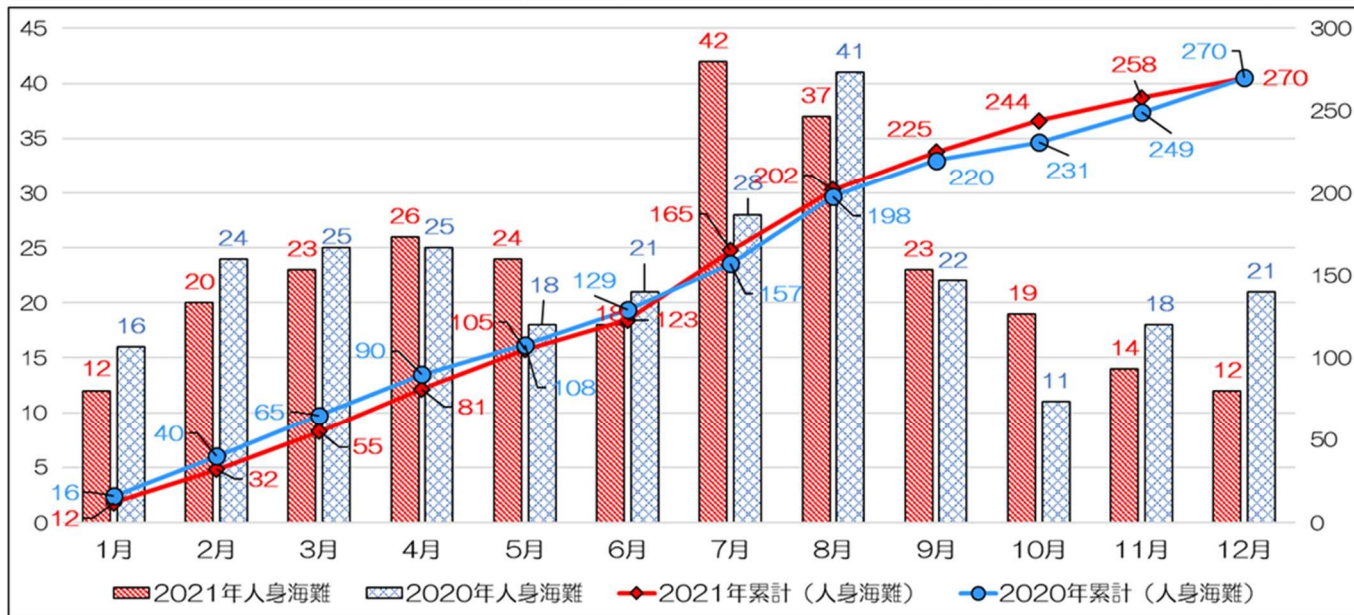
船舶海難の発生状況を見てみると、船舶種類別ではプレジャーボートの海難が増加し、貨物船の海難は減少・海難種類別では衝突、機関故障の増加している状況が確認された。

なお、プレジャーボートの詳細を確認するとミニボートの海難が2021年は24隻（前年+11隻）と増加している状況が確認された。

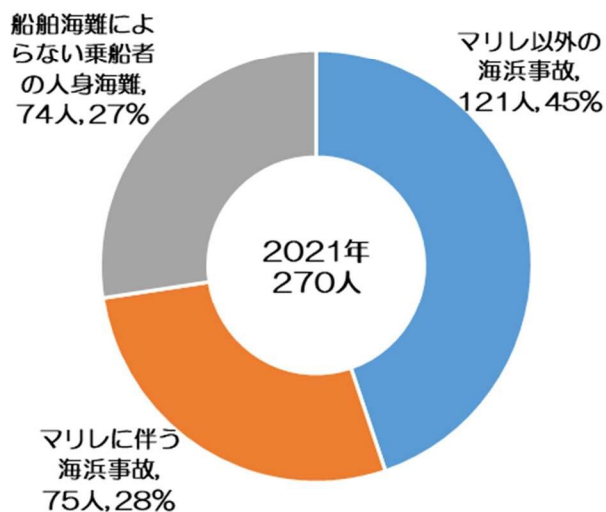
2021年は速報値
2020年は確定値

人身海難の発生状況

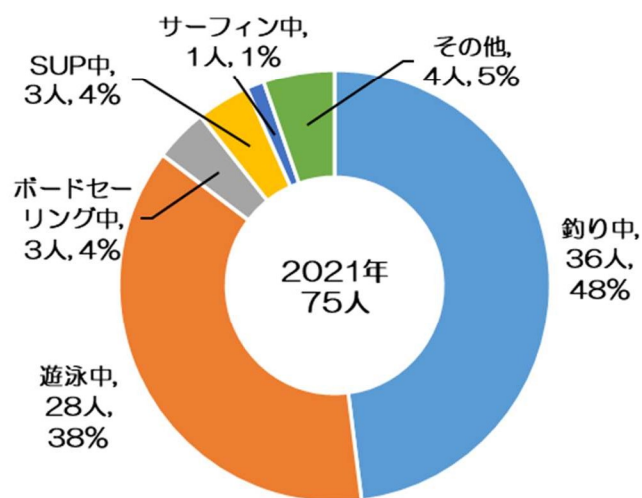
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年人身海難	12	20	23	26	24	18	42	37	23	19	14	12
2020年人身海難	16	24	25	25	18	21	28	41	22	11	18	21
前年差	-4	-4	-2	1	6	-3	14	-4	1	8	-4	-9
2021年累計（人身海難）	12	32	55	81	105	123	165	202	225	244	258	270
2020年累計（人身海難）	16	40	65	90	108	129	157	198	220	231	249	270
前年累積差	-4	-8	-10	-9	-3	-6	8	4	5	13	9	0



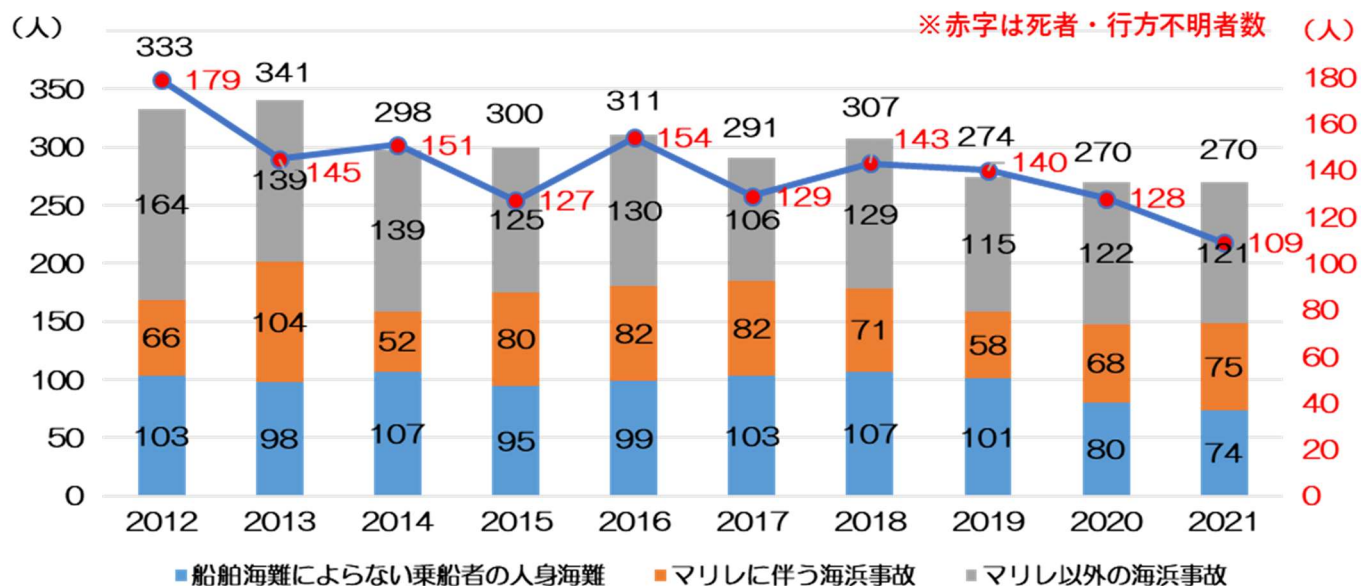
事故区分別発生状況



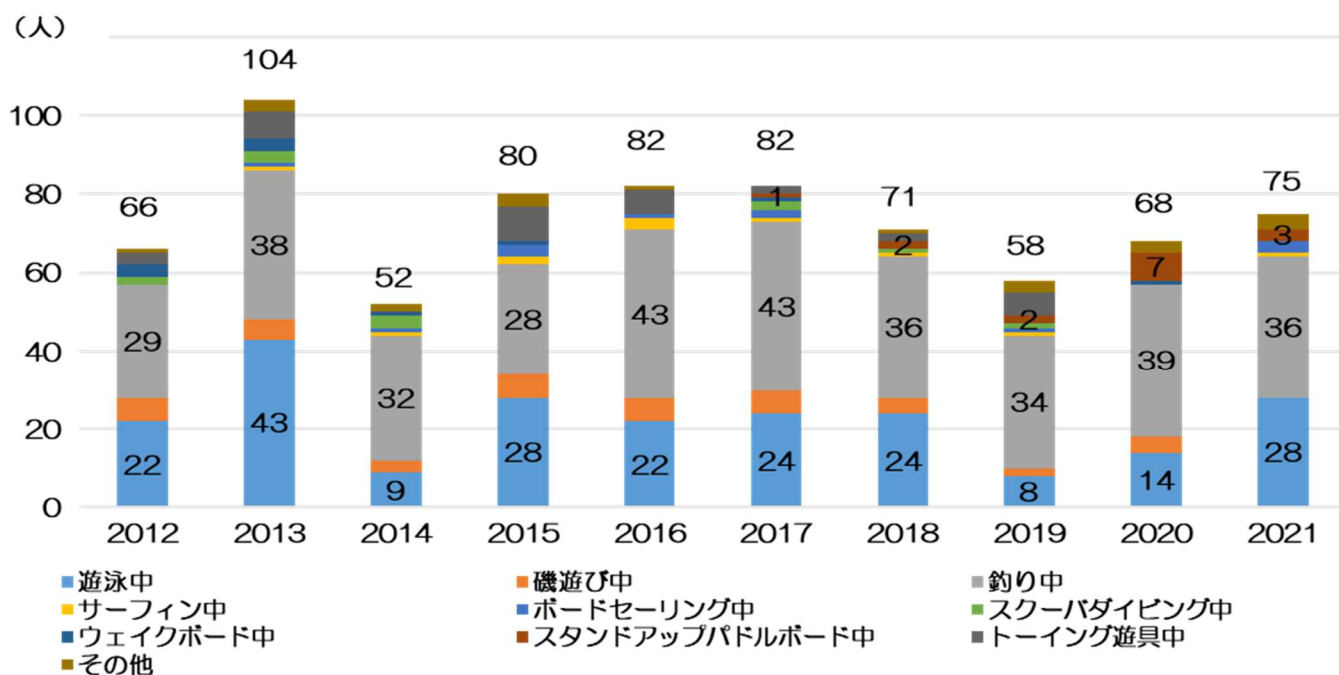
活動種類別発生状況
(マリレジャーに伴う海浜事故)



事故区分別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値



マリレジャー活動内容別発生状況（過去10年間（2012～2021）） *2021年は速報値



県別事故区分別発生状況（2021） *速報値

	山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県
マリレに伴う海浜事故	15	21	10	16	13
マリレ以外の海浜事故	20	41	8	32	20
船舶海難によらない乗船者の人身海難	12	23	4	23	12
総計	47	85	22	71	45

人身海難の発生状況を見てみると、2021年は270人と前年と増減はなく、事故区分別を確認するとマリレジャーに伴う海浜事故に若干の増加傾向が確認された。

なお、マリレジャーに伴う海浜事故では、遊泳中における事故が28人（前年+14人）と増加している状況が確認された。